



# 南島原市から世界遺産を！

長崎の教会群とキリスト教関連遺産

## 加津佐が日本の活版印刷の出発地

# 明日の世界遺産

THE TOMORROW'S WORLD HERITAGE

CHAPTER.19

子どもたちにもわかるよう“ふりがな”、“簡単な言葉”で紹介しています。

### 活版印刷機が加津佐に上陸！

天正遣欧少年使節がポルトガルのリスボンから運んできた（※1）グーテンベルク式活版印刷機は、加津佐のコレジヨに運び込まれました。

持ち帰った1590年当時、豊田秀吉の世。1587年のパテレン追放令など、少しずつキリスト教の禁教が進んでいたこともあり、秀吉の目をはばかり、長崎でなく、加津佐の地が選ばれたのではないかと、といわれています。



※1 グーテンベルク式活版印刷機とは  
1447年、ドイツ人のヨハン・グーテンベルクがぶどう酒のしほり機をヒントに発明した印刷機で、従来の木版印刷から金属活字印刷へ変わった画期的な印刷方式であった。  
小池徳久志撮影

### 意外と知られていない日本人技術者



コンスタンチノ・ドラード像  
諫早市立諫早図書館蔵  
wan撮影

少年使節には、印刷技術を勉強するために同行した、コンスタンチノ・ドラード（日本名不明・諫早出身）とアグスチーノ（日本名・出身地不明）の2人の日本人少年がいました。イタリアのジェノヴァ共和国やポルトガルのリスボンの印刷所で活版印刷技術を勉強したドラードらは、

※2 キリシタン版とは  
天正遣欧少年使節によって持ち帰られた印刷機によって、1590年から1614年の宣教師の国外追放で印刷ができなくなるまで、日本のイエズス会が出版したものを総称して「キリシタン版」と言います。



サントスの御作業の内抜書の扉絵

### 現存最古（※2）キリシタン版の印刷

「リスボンで買った印刷機は加津佐のコレジヨでまだ荷ほどきされずにある。早く書物の印刷、発行にかかりたい」と記しています。

### 加津佐コレジヨの印刷所の閉鎖

が今の状態ではそこまでの余裕はない」と述べています。

1592年の豊臣秀吉の朝鮮出兵により、全国の大名が名護屋城（佐賀県）に集まるなど豊臣政権の目が九州に向けられたこともあって、禁教の流れはますます強くなりました。宣教師らは、キリスト教の布教やセミナー、コレジヨなどの教育機関が発見されないように、領主有馬晴信の同意を得て、コレジヨなどを加津佐から天草に移すことを決めました。このとき、印刷機も天草へ運び出されたのです。

その後、1614年の宣教師の国外追放とともに、印刷機も活字も国外に持ち出され、ゆくえがわからなくなりました。現在出版物として残っているもの【キリシタン版（※2）】は、加津佐本5点、天草本12点、長崎本14点、京都本1点、の32点のみです。

\* 出典：「旅する長崎学」キリシタン文化Ⅱ 長崎文献社「イエズス会日本報告書」



## 特集- 僕たちの熱い夏

### 全国大会が南島原市で行われる幸せ

南島原市で行われたこの大会には、360人余の役員・ボランティア、1,100人の選手・監督・コーチ、それに2千人以上の家族やファンが、市内外から駆けつけました。

南島原市で、これほど大きな大会が行われたのは、合併前も含めて初めて。合併したことで、しっかりとした大会の支援体制ができるようになり、結果として大きな大会の誘致が可能となったためです。

また、大会を通してさまざまな経済効果が生まれています。市内の宿泊施設や飲食店、これらに材料を提供する小売店の売り上げ増や、会場での「島原手延へそうめん」の即売などの直接的な効果はもちろん、「南島原」の知名度の向上など、その効果は計り知れません。



①交代なし、休みなしで取材する報道陣。お疲れ様でした。②地元そうめんの即売。多くの人が、そうめんの味と共に今年の夏を思い出すことでしょう。③④今回の大会の成功で、関係者同士の絆がさらに強まることでしょう。⑤決勝を応援する有業少年、飯野小の選手たち。感動しました。

### 試合を支える人たち

試合の主役は選手たち。ですが、陰の主役ともいえるべき、さまざまな人たちが、試合を支えています。「選手にとっては、どれもかけがえない大切な試合。誤審で台無しにするようなことがないよう、私たちが真剣勝負です」と話すのは、大会の審判副委員長で、決勝戦の球審（主審）を務めた平石孝春さん（写真④）。選手以上に緊張が走ります。

テレビや新聞などの報道陣も連日の取材が続きます。「大変でしたが、地元勢の活躍は、嬉しいし、元気をもらいましたね」と笑う姿が印象的でした。

また、応援される側の選手が、応援するシーンもありました。決勝では、有家、飯野の両チームの選手たちが、メガホンを持って小浜を応援（写真⑤）。自分たちは負けてしまったけれど、地元小浜の勝利を信じて声を枯らすその姿に、はっとさせられた大人も少なくありませんでした。

## 西有家少年クラブ 勝利の“キセキ”

### 1回戦は、

香川県の前田フェニックスと対戦しました。

先行された5回表、3番鬼塚千拓君のセンター前ヒットなどで同点とし、2対2のまま7回を終了。試合はタイブレーカーに突入しました。5番松本君のセンター前ヒットから四球などで3点を奪い、1回戦を見事突破しました。



力投した木下一平投手

### 2回戦は、

静岡築地ソフと対戦。試合は3回裏、センター前ヒットやセーフティバントで2点を先行され、試合は最終回へ突入します。4番沼田大樹君のレフト前ヒット、6番木下一平君が内野安打、8番田中拓杜君のセーフティバントで2アウトランナー満塁。1打同点のチャンスに、9番狩野郁大君を迎えます。

狩野君は、渾身の当たりではじき返しますが、センターがキャッチし、ゲームセット。西有家少年クラブは、目標の初戦突破は果たしたものの、ベスト16入りはなりません。



⑥1回戦、勝利を喜ぶ選手たち⑦2回戦、沼田大樹君がホームを死守⑧バント処理をする狩野郁大君⑨田中拓杜君の絶妙なバントで満塁



私のおばあさんは、毎日必ず いそとりどりの野菜を使って料理をしてくれる。  
テーマ「私のお爺ちゃんやお婆ちゃんにこれがすごい！」南島原市立口津小学校 6年 名義 池崎 奈々